

日本獣医生命科学大学 附属ワイルドライフ・ミュージアム 2019 年度自然系展示室企画展の記録

(1) 基本情報

【企画展名】

2019 年度自然系展示室企画展「日獣大の野生動物研究最前線」

【会期】

2019 年(令和元年) 8 月 17 日から 2020 年(令和 2 年) 2 月 28 日

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため、会期を予定より短縮した

【会場】

日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム 自然系展示室

【主催】

日本獣医生命科学大学附属ワイルドライフ・ミュージアム

【企画立案・展示制作】

石井奈穂美(学芸員)

(2) 趣旨

本学は、1881 年(明治 14 年)に日本初の私立獣医学校として創立して以来、138 年間にわたり獣医学・畜産学のパイオニアとしていくつもの新たな分野を開拓し、先進的な取り組みを行ってきた。その一つが「野生動物学」の創生である。

獣医学・畜産学は家畜の科学として始まったものであるが、そもそも家畜は野生動物を人間が育種改良して作り出した人工の動物である。したがって、これらの学問分野の基礎として、野生動物についての知識が必要となるが、獣医学・畜産学では野生動物が研究対象に位置づけられていなかった。

20 世紀後半には、野生動物による一次産業被害の発生や、絶滅危惧種の増加など、人間と野生動物の関係は悪化の一途をたどるようになる。そこで本学は、単なる動物学としてではなく、人間との共存のための科学として新たな学問分野を切り開くことを目指し、1984 年(昭和 59 年)に獣医学科としては日本初となる野生動物学教室[※]を創設した。

野生動物学教室創設以降、本学では、多くの研究者がそれぞれの学問分野を背景に、野生動物を研究対象として多様化かつ複雑化する野生動物問題の解決に必要な研究や人材育成に取り組んできた。これまでの取り組みと研究の成果を紹介することを目的に、本企画展を開催した。

[※] 現 野生動物学研究室(2018 年(平成 30 年)に獣医学科は各教室の名称を研究室に改称した)

(3) 展示構成

【導入】

本学と野生動物の関わりを年表にまとめた。

【研究紹介】

本学で行われている野生動物に関する研究の中から、5つの研究成果を紹介した。研究テーマごとに、研究の概要をまとめたパネルと研究に関する資料を展示した。

・捕獲された個体を解析する —ニホンザル×繁殖生理—

野生動物学教室創設当初から続けられている、ニホンザルを対象とした繁殖生理の研究について紹介した。

・外来種の生息地利用を考える —アライグマ×行動追跡—

日本各地に定着した外来種であるアライグマが、どのような環境を好んで利用しているのかを明らかにするために実施した行動追跡調査について紹介した。

・見えない生態を可視化する —ツキノワグマ×生態調査—

ツキノワグマは、冬眠中に出産する、1年半という長期にわたり子育てを行う、といった独特な繁殖生態を持つ。警戒心が高く直接目視することが困難なツキノワグマの親子のつながりを明らかにするために実施した、3つの調査について紹介した。

・絶滅危惧種の死因を探る —アマミトゲネズミ×病理検査—

奄美大島固有のげっ歯類であり、絶滅の危機に瀕しているアマミトゲネズミの死亡個体を対象に実施した病理検査についてまとめた。

・栄養で動物の体をコントロールする —ヤンバルクイナ・ライチョウ×栄養—

絶滅危惧種であるヤンバルクイナとライチョウは、生息域外保全の対象種となっている。野生復帰を成功させるためには、生息環境に適した代謝形質を持つ個体を作成する必要があり、そのために必要な餌の開発について紹介した。

【日獣大の野生動物関連教育】

現在学内で行われている野生動物関連教育の内容をパネルにまとめた。



導入部分



研究紹介① 捕獲された個体を解析する



研究紹介② 外来種の生息地利用を考える



研究紹介③ 見えない生態を可視化する



研究紹介④ 絶滅危惧種の死因を探る



研究紹介⑤ 栄養で動物の体をコントロールする

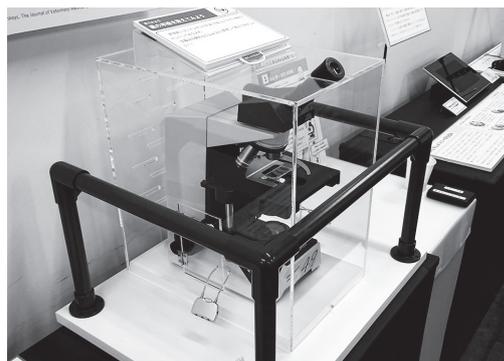
(4) 展示資料の概要

解説パネル：28点 展示資料：32点

研究テーマごとに展示台を1台設置し、研究で用いた標本や道具、関連する資料を展示した。また、それぞれの展示台にて、研究関連資料のハンズオン展示を実施した。



ニホンザルの頭蓋骨標本



研究に用いたスライドを設置した顕微鏡

(5) 関連イベント

該当なし